

(資料4-1)

第1部会（総務）

～第4次高砂市総合計画策定に向けて～

第3次総合計画 主要課題

発 表 資 料

高砂市企画総務部

第2章 ころの豊かさと人を尊重したまちづくり

『人間教育の推進と人権・平和の尊重』

第4節 芸術・文化の振興

施策の分野	事業の方向性等	考え方・意見等
2 市史編さん P 30	○市史編さん事業 → 継続 ○高砂市史刊行事業 → 継続 ・全7巻の刊行を予定	・今まで以上に精力的に進めてほしい。 若い人たちに高砂の歴史を残したい。 ・市民への公開を十分に図るため、今後、公文書管理をどのようにするのかという問題を含めて市史を検討する必要がある。

第6節 人権・平和の尊重

施策の分野	事業の方向性等	考え方・意見等
2 平和行政 P 33	○平和意識の啓発 → 新事業の検討 <現況と課題> ・広島平和のバス親子ツアーの廃止 ・語り部による講演会など予定	・平和意識の啓発についての新たな事業の検討であるが、条例化を目指してはどうか。市民の関心も高まり、意見も出てくるのではないかな。

第3章 うるおいと安心な暮らしがあるまちづくり

『環境との共生と都市基盤の整備』

第2節 市民生活の安全

施策の分野	事業の方向性等	考え方・意見等
<p>1 消 防 P 5 3</p>	<p>○火災予防事業 → 継続・充実 ・住宅防火意識の高揚と住宅用防災機器等の普及啓発</p> <p>○高砂分署移転新築事業 → 充実 課題：財源の確保が課題</p> <p>○消防・救急車両等整備事業 → 継続 課題：財源の確保が課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消防本部を広域化することによって、解決できる課題もあるのではないか。メリット、デメリットを比較検討する必要がある。 ・高砂市は、近隣都市のなかでも面積が少ないため、かなり短時間で対応できることで、安心感が高いと思う。
<p>2 救 急 P 5 5</p>	<p>○救急救命士の養成 → 継続 課題：研修及び実習での人員確保が困難</p> <p>○救急救命講習会の開催 → 継続 ・AED（自動体外式除細動器）の取扱い及び応急処置に関する正しい知識と技術の普及啓発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・救急で一番大事なことは命を守ることであるので、広域化については、メリット、デメリットを充分考慮しながら検討してほしい。 ・財源不足により、北浜救急ステーション事業（救急車の増車）が未実施とのことだが、市民の命を守ることを第一に事業に取り組んでほしい。 ・当市においては、1次救急、2次救急、3次救急と患者が重症化していく中で、のタライ回しを避ける体制作りは絶対必要と考える。やはり問題化している部分は、この部分であるので、充分な検討を望むところである。

施策の分野	事業の方向性等	考え方・意見等
<p>3 防災 P56</p>	<p>○地域防災計画の修正 → 継続</p> <p>○ハザードマップの運用 → 継続 ・出前講座を実施し、周知を図る。</p> <p>○自主防災体制の推進 → 継続 ・自主防災組織助成事業の継続 ・地域防災力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天災、風水害も少なく住みやすい町と感謝しているが、万一大きな災害が起きたときに心配される。災害が発生する時は、悪条件が重なることを念頭において、対策を考える必要がある。 ・他市町の災害の実態を踏まえて、ハザードマップ作成後の、次の実のある対策を市民や職員に浸透させる必要がある。 ・防災拠点の整備も大事であるが、市民の自主防災力の向上が重要である。自主防災組織などで、災害時、誰が誰を助けるのかといったことを詳細に決めておくべきではないか。
<p>5 防犯 P60</p>	<p>○青色防犯パトロールの実施 → 継続 ・公用車の青パト車化を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、高砂警察もかなり頻繁に巡回してくれて入る様で、心強い。地域の連携が一番重要と思う。

第4章 活力とにぎわいのあるまちづくり

『産業の活性化と交流の推進』

第1節 産業の振興

施策の分野	事業の方向性等	考え方・意見等
3 工業 P78	○高砂工業公園の更なる推進	・大企業の力の復興を望みたいが、日本経済全体が厳しい中、工業公園の更なる推進を望む。

第5章 市民参加のまちづくり

『計画の総合的推進』

第1節 参加と協働の推進

施策の分野	事業の方向性等	考え方・意見等
1 市民参加 P 8 5	<p>○市民意見公募手続（パブリックコメント）制度の運用 → 継続</p> <p>○広報やホームページによる参加機会の呼びかけ → 継続</p> <p><課題等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの市民が参加できるよう検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後10年間の市政を考えれば、市民の参画が必要と思う。市民も行政機能の一端を担うなど、一歩踏み込んだ参画と協働のあり方を考えてはどうか。 ・近隣都市と比べボランティア組織やNPOなどの活動が少し劣っている感じする。
2 広報・広聴 P 8 7	<p>○広報たかさご、ホームページの充実 → 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が「見たい、読みたい」と思うような広報誌づくりに努める。 <p>○地域ミーティングの開催 → 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの市民が参加できるよう検討する。 <p>○まちづくり出前講座の実施 → 継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「市長とホットトーク」の廃止、「市長と語る会」の廃止を受け、これにかわるものとして、「市長への手紙」を導入してはどうか。そして、市民からの意見に即対応し、データベース化し、市民がいつでも閲覧できるようにしてはどうか。

第2節 効率的な執行体制の整備

施策の分野	事業の方向性等	考え方・意見等
<p>1 組織・人事管理 P90</p>	<p>○組織・機構の見直し → 継続 ・事務事業を見直した組織の編成を図る。</p> <p>○人材育成基本方針に基づく人材育成 → 継続 ・職場の中で仕事を通して人材が育成されていく環境を整備する必要がある。</p> <p>○定員適正化計画に基づく職員採用 → 継続 ・新たな計画を策定し、職員数の削減を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織統合の考え方を市民目線に変えたほうがよいのではないか。市民のニーズを調査し、それに合わせてゼロから統合を考えていくことも、今後10年、20年を考えたら必要ではないか。 ・市の部署、窓口が非常にわかりにくい。市民に部署の名称を考えてもらう方法もある。市民が何をこの部署に求めているかを明確にする必要がある。 ・市の職員は、経営目線で仕事に取り組んでほしい。営業と考えて、市民対応を行ってほしい。 ・公共施設（窓口）での職員の対応を改善してほしい。
<p>2 事務管理 P91</p>	<p>○OA化の推進 → 継続 ・電子自治体の推進</p> <p>○文書管理システム維持管理 → 継続 ・ファイリングシステムの継続 課題：真に必要な行政サービスは何かの仕分けが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本目標の中で、「真に必要な市民サービスを提供するため、市政情報の公開に努める」では、表現が不十分ではないか。市が提供しうる市民サービスの減少が予想される中、本当に行政がやるべきこととそうでないことの仕分けが必要になる。その議論も必要ではないか。 ・市の財政が厳しくなる中で、「真に必要な行政サービスは何か」を新総合計画の時代の潮流と計画の視点に盛り込んでどうか。 ・市がOA化するときは、いつ、何を、どのようにOA化したのか、きちんと情報を残しておくことが大事である。また、市民の問合せにはすぐに対応できるような整理をしておくべきである。

施策の分野	事業の方向性等	考え方・意見等
<p>3 行財政運営 P 9 2</p>	<p>○財政運営の健全化 → 充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な財政運営を目指す。 ・行政評価システムの運用 <p>○行政改革の推進 → 充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての施策を見直し、「選択と集中」を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政評価システムについて、内部評価ではなく、外部評価をする必要がある。 ・市民病院の特例債の22億円は、借金だということをきちんと告知すべきであり、借金返済のため税金が投入される市民病院は、危機感を持って運営すべきである。
<p>4 地域情報化 P 9 3</p>	<p>○生活情報ネット端末の運用 → 廃止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政がすべき地域情報化について検討する。 	

第3節 広域行政の推進

施策の分野	事業の方向性等	考え方・意見等
<p>1 広域行政 P94</p>	<p>○他市町との連携・調整（水道、消防、下水道、災害、医療等） → 継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・救急で一番大事なことは命を守ることであるので、広域化については、メリット、デメリットを充分考慮しながら検討してほしい。 ・当市においては、1次救急、2次救急、3次救急と患者が重症化していく中でのタライ回しを避ける体制作りは絶対必要と考える。やはり問題化している部分は、この部分であるので、充分な検討を望むところである。 ・医療行政だけでなく、すべてのことについて広域性が盛んに行われているが、市民にメリットがあることを前提に取り組んでほしい。